

ACP サマリーの記載基準

	話し合いの項目	話し合いの内容
1	病状や将来について不安に思っていること、気がかりや心配に思っていること	話し合いの項目について記載された内容の通り なぜそのように思うのかについて語りを聴き、その思いも記載
2	大切にしたいこと	話し合いの項目について記載された内容の通り なぜそのように思うのかについて語りを聴き、その思いも記載
3	現在の病状についてのとらえ方、日常生活・セルフケアの状況（以前との変化）	*日常生活・セルフケアの状況については、近くは前回受診時との変化、状況では元気な時や再発治療開始時期、治療継続時で調子のよい時、もしくは調子の悪い時等と比較して、現在の状況を記載する（治療の決定に影響を与える因子であることを意識して、患者の QOL を考慮して現状を記載する。高齢者機能評価も参照）
4	医療者からの説明や今後の話し合いに対する希望（どこまで知りたいか、誰と一緒に聞きたいか等）	*現在、誰とどのように説明を受けているのかを確認し、今後も現状でよいのか（付き添いや同席の状況を確認） *病状やこれからのことについて、どこまで知りたいか、余命も含めて知りたいか（状況を見て確認）⇒余命についてはNo.10 も等について、話し合われた時（可能なら、その時の表情や同席する家族等の反応を含めて記載）
5	将来、治療変更が必要になった場合の治療に対する希望	*「副作用はある程度我慢してでも最も効果の高い治療を受ける」「きつい（つらい副作用がある）治療はなるべく避ける」「生活の質（自分が希望するような生活の過ごし方、満足感、充実感）を大切にする」など、質問紙や話し合われた内容から記載
6	今後起こり得ることや将来のケアに関して優先的に希望すること、療養場所について考えていること	*患者が目標とすること（近い目標、少し遠い目標）とその背景 *将来のケアについての希望とその背景（DNR・延命治療も含む） *療養場所についての希望と背景 上記について、なぜそのように希望しているのかも聴き記載
7	将来のことや治療法の決定における意思決定の在り方（例えば、自分で、家族と共に、専門家に任せるなど）や意思決定能力	*これまでどのように決定してきたのか、今はだれとどのように相談しながら、どのように決定しているのか、これからどのようにしていきたいと思っているのかという患者の状況 *診療の中で、どのように対応しているのか、医療者からみての状況及び懸念など
8	大切なことについて相談する人、将来に備えての代理意思決定者。家族のサポート体制・病状や本人の思いに対する理解度	話し合いの項目について記載された内容の通り *サポート体制が少ない患者の場合、個人の尊重と共に、将来の判断能力低下した場合に意思決定を依頼できる人について、遅くならないように話し合い記載 *病状認識の違いは多くみられる状況であることを踏まえて、病状進行に応じて話し合い、理解や認識の状況を記載
9	病状や将来について家族や大切な人、代理意思決定者と話し合っている内容	話し合いの項目について記載された内容の通り
10	予後や期待される余命などについての話し合いの内容	話し合いの項目について記載された内容の通り *医療者との話し合いの状況（内容とその時の反応） *話し合いの後の反応があればそれも記載

○記載に当たっては、日付、内容、（記載者氏名）の順に記載してください。

	話し合いの項目	話し合いの内容（記載例）
1	病状や将来について不安に思っていること、 気がかりや心配に思っていること	2019.9.10 治療の効果や家で過ごせる時間がどれくらいか（●●NS） 2021.4.7 気になるのはやっぱり夫のことかな。これからのことを考えて、家のことを教えたりしようとするのが嫌がるし、やっぱり受け入れたくないんだな一つ思う。いつ治療ができなくなるかわからないし、これからのことは2人でちゃんと話したい。夫は聞きたいことも聴けていないかもしれない。夫のことも助けてあげて欲しい気持ちも聴いてあげて欲しい。（○○NS）
2	大切にしたいこと	2019.9.10 ずっと家族といたい。したい事（旅行や家族との時間、孫の成長）をしながら治療を続けること。家事ができて、トイレ・お風呂も自分でできていること、夫が小言を言わないでいてくれること、今自分があることが何よりも幸せに感じる。（●●NS） 2021.4.6 今大切なのは、夫が一番、次に犬（癒される）そして花（□□NS）
3	現在の病状についてのとらえ方、 日常生活・セルフケアの状況（以前との変化）	2019.9.10 PS:0 潰瘍部が悪化していないことから、以前よりはQOLは上昇、時折咳嗽有、嗄声持続。日常生活に支障はない。（●●NS） 2021.4.8 PS:3 前の治療（S-1）をしたいという希望であるが、白血球も下がっており家に帰って生活を見て検討。副作用が出たら中止（●●Dr）
4	医療者からの説明や今後の話し合いに対する希望（どこまで知りたいか、誰と一緒に聞きたいか等）	2019.9.10 医療者とは十分に話し合えていると思っている。（●●NS） 2021.4.8 夫：余命についての話は聞きたくない。期間を考えながら生活をしたくない。本人も同様（○○NS）
5	将来、治療変更が必要になった場合の治療に対する希望	2019.9.10 辛い副作用は避けたい気持ちがあるが、1日でも長く生きたい気持ちがある。自分の好きな事を続けられるような治療を受けたい。生活の質を大切にしたい。（●●NS） 2021.4.6 もう治療はいいかなあと思っていたけど、入院して調子が良くなったら、できる治療は量を減らしてでもできないかなあと思う（□□NS） 2021.4.8 夫：彼女が頑張るなら従う、できる治療は頑張してほしい（○○NS）
6	今後起こり得ることや将来のケアに関して優先的に希望すること、療養場所について考えていること	2019.9.10 家族との時間を大切にしたい。夫一人のみに負担をかけたくない。夫と一緒に話し合って決めていきたい。（●●NS） 2021.4.13 本人はできるだけ自宅、夫は入院のほうが安心（○○MSW）
7	将来のことや治療法の決定における意思決定の在り方（例えば、自分で、家族と共に、専門家に任せるなど）や意思決定能力	2019.9.10 自分で決めながら、家族と共に話し合っていきたい。（不安を強く表出することもあるが、自身で意思決定する力は十分にある）（●●NS） 2021.4.7 これからのことは二人でちゃんと話したい。（○○NS）
8	大切なことについて相談する人、将来に備えての代理意思決定者。家族のサポート体制・病状や本人の思いに対する理解度	2019.9.10 夫。病状の理解も得られている。（●●NS） 2021.4.13 夫：訪問看護と当院通院について医療費合算の件について理解しているが、一旦それぞれの支払いになり負担（夫の一番の心配は支払い、経済的な負担への配慮必要）（○○MSW）
9	病状や将来について家族や大切な人、代理意思決定者と話し合っている内容	2019.9.10 まだ具体的には話し合っていない。質問紙と面談を受け病状が進み動けなくなった場合の事を具体的に想像することはできた。（●●NS） 2021.4.6 自分がいなくなった後のことを話そうとするが、夫は「今はいい」と言ってきいてくれない（□□NS）
10	予後や期待される余命などについての話し合いの内容	2019.9.10 前医師に尋ねた時に「余命についてはわからない」と言われたので、分からないくらいには自分の余命はあるのだと思ったので、その時点では具体的に聞かなくても良いと思っている。しかし、治療を続け病状が進み、治療の効果がないとなってきたら余命を聞かないといけなくて考えている。その場合は夫一人のみに聞いてもらうのは負担になると思うので夫と一緒に聞きたい。聞いた上で残された時間をどう過ごすかまで考えたい。（●●NS） 2021.4.8 余命とかは知りたくない。そういう時が来るっていうのはちゃんとわかっているけど。心構えとして知っていた方がいいんじゃないかなあとは思っている。その時を待っているより今のうちに話をしていきたい（○○NS）